

成長志向型カーボンプライシング構想

(1) 「GX経済移行債」を活用した先行投資支援（今後10年間に20兆円規模）

(2) カーボンプライシングによるGX投資先行インセンティブ

- ・ 炭素排出への値付けにより、GX関連製品・事業等の付加価値向上
- ・ 直ちに導入するのではなく、GXに取り組む期間を設けた後に、当初低い負担で導入し、徐々に引き上げ
- ・ エネルギーに係る負担の総額を中長期的に減少させていく中で導入することが基本

- ① 多排出産業等の、企業毎の状況を踏まえた野心的な削減目標に基づく「排出量取引制度」の本格稼働【2026年度～】
+ 発電事業者にも、EU等と同様の「有償オークション」を段階的に導入【2033年度～】 → 電源の脱炭素化を加速
- ② 炭素に対する賦課金制度の導入【2028年度～】
→ 化石燃料ごとのCO2排出量に応じて、輸入事業者等に賦課。

(3) 新たな金融手法の活用

官民連携での金融支援の強化、サステナブルファイナンスの推進、トランジションへの国際理解醸成 等

⇒ これらの方針を予め示すことで、GX投資を前倒して取り組むインセンティブを付与する仕組みを創設。

